

# 組織風土と社員の意識を変える民間企業の実践例

企業	行動規範等	浸透させる手段
A社 (食料品製造)	行動規範と 指針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ CSR (corporate social responsibility) 委員会の設置</li> <li>➤ CSR月間の導入と期間中のグループディスカッション</li> <li>➤ 役職別のコンプライアンス研修の実施</li> <li>➤ 実践度の人事評価制度への反映</li> <li>➤ 相談・通報制度</li> </ul>
B社 (建設)	安全に関する 方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 安全に関する全社的・支社別委員会の設置</li> <li>➤ 安全強化週間の導入と社長及び全社委員による現場パトロール</li> <li>➤ 安全朝礼・責任者巡視</li> <li>➤ 内部通報制度</li> <li>➤ 協力会社への教育支援</li> <li>➤ 安全に関する大会の開催と表彰</li> </ul>
C社 (運輸)	行動哲学の 策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 経営層ほど高頻度で行われる役職別社員研修の実施</li> <li>➤ 行動哲学をテーマごとに解説した手帳の配布</li> <li>➤ 職場での掲示</li> <li>➤ 毎朝のミーティングから始める就業時間中の1日1テーマの実践</li> </ul>
D社 (電気機械製造)	経営危機から の脱却	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 過去最大の赤字を出した当時の業績グラフを会議の度に参加者が確認</li> <li>➤ 幹部が現場に赴き、若手職員を集めて膝詰めで社の考えを説明・議論</li> <li>➤ 定期的に業務改革標語を掲げた社内ポスターを作成</li> <li>➤ 一般社員も含めた給与カットと無給休暇の付与による危機意識の共有</li> </ul>

# 組織風土と職員の意識の変革に向けて

「性弱説」に立ち、不正や誤りが発覚しやすい仕組みを整備するのみならず、統計職員の心の拠り所となる行動理念（統計職員バリュー（仮称））を作成してはどうか。

統計職員バリューは、統計業務経験が豊富な各省統計職員が共同で、職員目線で自明と思われることも含めて明文化してはどうか。

## 各種提言や新生部会委員の指摘

- 事なかれ主義の蔓延、遵法意識の欠如
- 国民生活への影響に対する想像力欠如
- 統計の役割と意義、限界についての共通理解を得るべき
- 行政の無謬性へのこだわりなくすべき

## 統計職員バリューに盛り込む内容（例）

- 公表後の利活用への想像力
- 誤差のない統計はないが、精度向上を求める姿勢が大切
- ミスは発生するもの。隠さず責めず、リカバリーに注力
- 調査報告者、調査員など他者への感謝の気持ち
- 変化に追われず、自ら変わる姿勢

## ＜統計職員バリューを浸透させる取組の案＞

- 幹部から一般職員まで、統計職員バリューの研修等を行い、共有・定着
- 幹部職員が調査現場に足を運び、現場職員の意見を聞く機会を設ける
- 統計幹事研修等では、ミス等の具体例を活用して、幹部・管理職の意識向上
- 定期的に政府の統計職員を一堂に集めて、一体感の醸成や統計の重要性の確認等を行う機会を設定